

# 講評と対策

平成29年度

四天王寺中学校

入学試験問題



# 国語

## 問題内容

- 一 『思考する身体に触れるための18章  
言葉が鍛えられる場所』  
平川 克美(大和書房)
- 二 『僕は何度でも、きみに初めての恋をする。』  
沖田 円(スターツ出版文庫)
- 三 『まちがったっていいじゃないか』  
森 毅(ちくま文庫)

## 配点

30点

50点

40点

## 出題の意図

- 「言葉が鍛えられる」ということについての筆者の考えを読み取る
- 両親の不仲に悩む主人公が現実と向き合おうとする心情とその推移を読み取る。
- 筆者が過去の自分をふり返って「今」を見たときの筆者の思いを筋道立てて読む。

## 各問題講評

### 【書き取り】

●「平易」が「平意」とする誤答が目立ったが概ね正答率は80%と高かった。日常使わないような文章語は意味を知らなくて書けない。

### 【抜き出し問題】

●今回の試験では単純な抜き出しミスは少なかったように思われるが、設問の指示に注意し、何を問われているのかを正しくつかんで解答してほしい。

- 一 問4 一語で抜き出すことが指示されているにもかかわらず、一語でない解答があった。正答率70%。
- 問5 「言葉」「経験」の誤答が多かった。(正答率30%) 「言葉」は問題の指示である「これより前の文中から漢字二字で」のみに頼って解答したと考えられる。「経験」は空欄の直前を抜き出したと思われる。どちらも本文の主旨には全く合致しない。
- 二 問3(2) 緊張していた親子の空気を変えたのは花粉症で鼻をすすっているのだという、父の言葉に母が吹き出したことによる。それにつられて「私」も笑い、その「笑い」によって両親は「優しい表情」に変わっていく。誤答には「声」「お父さん」「お母さん」「夫婦げんか」「だきしめた」などがあった。解答率は10%にも満たない難問であったようだ。
- 三 問4(1) 『「豊かさ」を求める』『もっと「豊かな」生活』という誤答があったが、それはつまりどういう「生き方」なのかを答えられていない。正答率70%。
- (2) 「いまよりずっと貧しかった生き方」「昔の不便で『貧しい』時代」の誤答。「反対の生活」と聞かれているので「生き方」や「時代」では答えにならない。正答率は75%。

### 【客観問題(選択肢)】

●比較的正答率は高かった。

正答率の低かったもの

- 一 問3 正答率は30%。多かった誤答はイ。難しい選択肢であった。これまで使ってきた「ありふれた言葉」に新たな感情が加わったものは例として適当。疲れた時に「休けい」と言われて「休けいの大切さ」を実感しているのは「休けい」という言葉そのものに対する感情ではない。
- 二 問10 正答率は30%。多かった誤答はウ。「さっき」と「今」の違いは、両親に自分の思いを話せたところにある。だから座っている」ということだけでは答えとして適当でない。

- 三 問3 正答率は約30%。多かった誤答はイ。傍線部③直後の文の読解ができていないことが原因と思われる。

### 【記述問題】

●記述問題はまず傍線部を正確に読み取り、何が問われているのかを正しくつかんで解答してほしい。

- 二 問7 正答率は60%。誤答として「本当の気持ちである」「本心である」というものが多かった。また、傍線部を含む一文の冒頭の「でも」を見落として作った誤答が多かったように思われる。

## 次年度入試 アドバイス

四天王寺中学校入試問題では現代社会の問題に関する文章を出題する傾向があります。小学生の話し言葉にはない少し古い文章語や、抽象的な概念を表すことばを用いた文章に慣れることが必要です。そのため小学生でも読める評論(例えば岩波ジュニア・ちくまプリマー・ブルーボックスなどの新書)、文学的な小説などを意識して読んでください。長編も出題されますが、慣れることで早く読めるようになります。また、新聞記事を読むことで、現代社会の問題に興味を持ってください。語彙が豊かになるだけでなく知識も増え、大人の文章に親しむことができます。

正しく解くためには、小説、評論のジャンルにかかわらず、問題文はもちろん、設問の読み取りは大切で、語彙の有無は大きく作用します。求められていることを限られた時間内に答えることを意識し、時間をはかって解答する練習をしてください。傍線部周辺を参考にして、とりあえず解答を作成していくのではなく、文章を確実に理解しキーワード、キーセンテンスを用いて記述問題に取り組み、練習することで書く力が身につけてきます。

# 社会

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1 地理分野 (日本とつながりの深い国々)	19点	日本とつながりが深い国々の伝統や文化などについての理解を問うた。
2 地理分野(日本の林業)	5点	間伐や伐採されない人工林が増えている理由を問うた。
3 歴史分野(古代)	8点	8世紀の日本の歴史について基礎的な内容を問うた
4 歴史分野(中世)	8点	1180年から1338年までの略年表を用いて、この時代の社会情勢について問うた。
5 歴史分野(江戸時代～現代)	16点	四天王寺再建の歴史をリード文として、特に近現代史を中心に、政治・経済・外交・文化史について幅広く問うた。
6 公民分野	24点	2016年に起こった日本と世界のできごとを出題した時事問題。

## 各問題講評(具体的に)

- 教科書レベルの事項の出題であったが、正解の個数が分らない出題形式にとまどったためであろうか、正答率は50%前後であった。
- 地球環境問題にからめて述べられた解答が多数みられた。林業労働者の高齢化や人手不足についてはよく論述できていた。
- 4基礎的な内容の出題が多かったので正解率は比較的高かったが、漢字で答えることができていない解答が多くみられた。
- 各問いともに、正解率は低かった。問5の「雨森芳洲」は、人物名は覚えていても漢字の間違いや仮名書きのために誤答となるものが多かった。
- 2016年に起こった日本と世界のできごとに焦点を当てて、色々な出来事が起こった国名や人物名を理解しておく、オリンピックの話題、ノーベル賞なども、世界の出来事の正解率は低かった。

## 次年度入試 アドバイス

### 【地理分野】

地名、地理用語、都道府県の産業特徴、日本とつながりが深い国々の文化の特徴などの問題以外にも、地理では様々な問題の形式が考えられます。統計やグラフ、地図や図表などを用いた問いにも解答できるように、暗記事項に頼らず、因果関係を理解し応用問題に対応できるような学習を心がけてください。

### 【歴史分野】

まずは、教科書をしっかりと読むことが大切です。「暗記科目」ととらえずに、因果関係や内容をきちんと理解するように心がけて学習してください。正誤問題・年代整序とともに、そのような学習をコツコツと積み重ねることが正答につながります。また、常に正確に用語を書く習慣をつけましょう。

### 【公民分野】

本校では必ず時事問題を出している。ふだんから社会の様子、世界の出来事に興味を持って、日本の出来事と比較してほしい。

### 【全般】

問われている項目が多く、時間内での処理も大切。偏った、ヤマを張る学習ではなく、基本的な項目を幅広く、正確にまとめておいてほしい。また、全体に漢字で解答できない受験生が多くなっています。社会科の入試では、教科書や地図帳に記されているレベルの人名・地名・用語などは、漢字で解答することが原則ですので、正しい漢字で解答できるように学習することを心がけてください。

# 算数

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1 小問集合(①②計算)	14点	①計算の工夫ができるか。 ②四則混合、小数、分数の基本計算が正確にできるか。
2 平面図形 (面積の条件から長さを求める。)	14点	①面積が等しいことから線分比を考え、長さを求めることができるか。 ②円を含む図形で、面積が等しいことから長さを求めることができるか。
3 小問集合 (①食塩水の濃度②推理③推理)	21点	①混合した食塩水の濃度から元の食塩水の濃度を求めることができるか。 ②数が書かれた立方体を積み上げたとき、見える面の数の最小値を求めることができるか。 ③数あてゲームにおいて、与えられた条件から正しい数を推理することができるか。
4 文章題(新記号・場合の数)	21点	新記号の意味を理解し、等式を満たす整数の個数を数えることができるか。
5 文章題(規則性)	12点	伝言ゲームの規則性を理解し、与えられた条件から人数や間違っただけの人を求めることができるか。
6 文章題(旅人算とダイヤグラム)	20点	正方形の周りを回る3個の点のダイヤグラムを描き、そこから速さ・時間・距離を読み取ったり計算したりすることができるか。
7 立体図形 (体積比・切断面の面積比)	18点	粘土の立方体をくりぬいて別色の粘土を詰めた立体において、2色の粘土の体積比や切断面の面積比を求めることができるか。

## 各問題講評

### 【正答率】(概算)

- ① 80% ② 60% 2. ① 50% ② 25%
- ① 15% ② 10% ③ 70% 4. ① 90% ② 8% ③ 1%
- ① 85% ② 15% 6. ① 70% ② 2% ③ 10%
- ① 30% ② 50% ③ 20%

- ①②1段ごとに粘土の色を塗り分けた図を描こう。③先に描いた1段ごとの図に切り口を書き足そう。次に切り口の三角形PQFの図を描き、塗り分けてみよう。空間図形はよく勉強をしているようで、過去と比較して正答率が高かった。

### 【講評】

- 基本問題である。満点を目指そう。  
①は、381,382,383と似た数があることに着目して、計算の手順を工夫しよう。②は小数・分数を含む基本の計算である。①②ともよくできていた。
- ①条件から三角形ADPと三角形BCPの面積は等しいことがわかる。②合同でなくても面積が等しければ置きかえて面積を考えることができる。もう少し高い正答率を予想していた。
- ①3種類の食塩水と水を混ぜてできる食塩水の濃度から元の食塩水の濃度を求める。条件が複雑だったため、読み間違いや計算間違いが多かったようだ。②辺に沿っては1と2の面、中は1の面が見えるときが最小になる。上の角は、1,2,3の面が見える。図を描いて、ていねいに数えよう。③推理の問題でよくできていた。誤答の多くは並び順の間違いだった。
- 新記号(4で割った余り)の問題。初めに、 $[A]=0, [A]=1, [A]=2, [A]=3$ となるAの個数をそれぞれ求めておこう。②は余りの和を4で割った余りが2になるA,Bの組、③は、余りの和を4で割った余りと余りの和が等しくなるA,Bの組をたずねている。②③とも、初めに $[A],[B]$ の値の組を求めるとよい。
- 伝言ゲームの規則性の問題である。①はよくできていた。②は、正しく伝わっていれば、最後の人に伝えられた数は398である。 $622-398=224$ の差は、2を加えるかわりに2倍したことで出てきた。このことから間違えた人の順番を計算しよう。
- 問題文からダイヤグラムを作成し、それを読み取る問題で、複雑な計算はない。ダイヤグラムの扱いに慣れておこう。

## 次年度入試 アドバイス

計算力はすべての問題の基本であるから、早く正確にできるように練習しておこう。また、計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心掛けて取り組んでおきたい。合格点を取るために、計算問題は、式をながめて特徴をつかんでから、落ち着いて計算し全問正解しよう。また、小問や、大問の①②は基礎的な問題が多いので、目頃から数多く基礎を練習し、迅速かつ確実に正解できるようにしておこう。

例年、大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができない。問題文をしっかりと読んで内容を十分に把握した上で、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフ・ダイヤグラムを作って利用するなど、その場で解法の糸口を見出せるようふだんから思考力・試行力を養っておきたい。

平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、裏返したり、折り返したり、対称性を利用したりといった特徴を活用できる目を養っておこう。

立体図形については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で立体が考えられるようにしたいものだ。必要な断面や展開図も描けるようにしておこう。

本校の過去の問題を見ればわかるように、決して難問・奇問(特に、小学校の学習指導要領の内容を超える分野)を練習する必要はない。標準レベルの問題を自分で十分に理解、納得して解くという勉強の姿勢が大切である。

# 理科

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1 水溶液の性質	20点	溶解現象を通して、物質の粒子としての概念や実験結果を用いた計算などで、考察する力・思考する力をはかった。
2 植物と動物の生活	20点	アブラナの花の構造やチョウの食性・越冬などの基本的な知識を問うとともに、生物の個体数の測定方法、光に対する昆虫の反応、キクの開花に見られる光周性を考察する力をはかった。
3 ふりこの運動	20点	ふりこの運動を素材として、実験の手法・運動の規則性についての理解を問うた。あわせて、与えられた情報をもとに、運動を解釈する思考力をはかった。
4 日本の天気・気象	20点	天気の変り変わりと台風について基本的な知識と考察力を問うた。猛暑日や熱中症という日常的なテーマを扱い、気象への関心を高めることを目指した。

## 各問題講評

- 20点満点中、平均は8点ぐらいであった。基本的な器具やその操作については理解できているが、物質と粒子の概念(粒子と質量、体積、密度の関係)についての理解が浅い。計算問題では、指示された桁数で解答できていないものが見られた。グラフを完成させる問いでは、20~26℃、56~60℃のグラフが欠けているなど、指示された範囲(20~60℃)で完成できていない解答が多く見られた。
- 20点満点中、平均は12点ぐらいであった。基本的な知識問題の(1)~(3)は正答率が高かった。一方、記述問題である(5)(6)では、問題文に書かれている内容を理解していない解答文や、主語が不明な解答文が目立った。(7)は前年の生物分野の問題をベースにした内容で、過去問をしっかりと復習していれば得点できたはずだが、簡潔な解答文を書いている受験生が少なかった。
- 20点満点中、平均は8点ぐらいであった。(4)は、おもりが軌道の1/8(AからPまで)を移動するのに1/8周期(0.25秒)かかると考えたミスが多かった。(7)については、半周期ごとに周期が変化するふりこの運動を、グラフで正しく表せる受験生が少なかった。普段から様々な現象・運動を観察し、その結果をグラフ等で表現する練習をしておくことが大切である。
- 20点満点中、平均は10点ぐらいであった。(1)(7)では、問題文をきちんと読んでいけば防げたであろう誤答が目立った。(6)は知識で解くのではなく、問題文から情報を読み取り考える考察問題である。「風は反時計回

りに台風の中心部にふきこみ…」[a地点では…東→北→西…]といった記述内容をもとに、図を描いて答えを導き出すことのできる受験生が少なかったようだ。

## 次年度入試 アドバイス

理科は物理・化学・生物・地学の4つの分野に分かれています。例年ほぼ均等に出题されています。以下の点に注意し、4分野をまんべんなく勉強し、準備しておきましょう。

- 理科で学ぶ重要な「用語」や「化学式」、「単位」などを正確に理解し、特に用語は正確な漢字で書けるようにすること。
- 記述問題では、理科の用語を的確に用いるとともに、ポイントをつかんだわかりやすい表現が出来るように心がけること。特に主語が欠落しないなど、普段から書くことに慣れて文章力を身につけておくこと。
- 教科書で扱われている実験については、実験操作の意味もしっかり理解し、学校の授業では積極的に実験に参加すること。
- データの処理に関し、グラフの読み取りや作成に慣れ、ある程度のグラフは書けるようにすること。計算力をつける学習も大切である。
- 生活の中で体験する身近な現象などに日頃から関心をもつよう心がけ、なぜそのような現象が起こるのかを自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
- 過去の入試問題を解いて、「問題形式」や「解答方法」などに慣れておくこと。その際、時間を計って解答し、決められた時間内で問題文をしっかりと読み取るトレーニングをしておこう。